

---

# 電車内は人の心の中

小田 浩正

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

電車内は人の心の中

### 【Nコード】

N8824Z

### 【作者名】

小田 浩正

### 【あらすじ】

僕は下校での電車内では、立たずに必ず座るようにしている。そして、目を閉じて音楽プレイヤーでクラシックを聴く。だが、目を開けたら……

## プロローグ（前書き）

初めて書きました。

出来はわかりません。

見た方はなるべく感想よろしくお願いします。

## ブローグ

僕は電車内にいた。

なぜなら下校中だからだ。

僕の通っている学校では、線の始発駅が1番の最寄駅となるため、学校が終わって電車内に入れば、席が空いていることが多い。

だから僕はドアの近くの席に座った。

さて、僕はこれから電車内で約10分間過ごさなければならない。

することがない。

本を読めばいいのではないかと思うかもしれないが、文庫のあの厚さを見てしまうと気が引けてしまう。

小学生のころは、教科書に書かれた詩を見るだけで、吐き気がした。

マンガでもいいのではないかと思うかもしれないが、僕はマンガを読まない主義。

だから、無理。いや、別に読もうと思えば読める。

だが読まない。

しかし、そんな僕でも高校生になれば、中学生の『矛盾』ぐらいは読めてしまう。

…そんな自慢話は置いとこう。

しょうがないので、僕はポケットからたった一人のアーティストしか入っていない音楽プレイヤーを取りだし、耳をイヤホンに装着。

曲はベートーベンで「悲愴」

何と言っても、今の僕に合ってしまう曲である。

…自分でもそう思ってしまうのはなんだが、そうなのだ。

演奏時間は約20分だが、駅から自分の家まで10分なのでちょうどいい配分だ。

目を閉じる。さて、鑑賞にでも浸ろう。

「…ふっ…ふっ…ふっ…」

「……？」

なぜか、バスドラムをたたく音とともに変な音が聞こえる。

「……………」

「……………」

聞き間違いだったようだ。

目を開けて、周囲を確認。

まばらに人はいるが、特に気になることは見つからなかった。

もう1度目を閉じて、曲の鑑賞に浸ろう。

さて、もうそろそろ1つ目の駅にたどり着くだろう。

始発駅から自分の家の最寄駅の間に駅が2つあるが、いつも乗り込んでくる人は少ない。

なくてもいいのではないかと思うのだが、朝は案外乗り込んで来て登校中、押しつぶされる。

そして、僕はいつも暇なので誰がどのドアから入ってくるのか、統計をしている。

僕はなるべくいつも同じ時間の列車に乗りうつとしている。

大抵、この時間に乗りでんでくるのは買い物帰りのおばさんだけだ。腰が曲がり、持ち歩いているのおばあちゃんが大変そうに見えて、手伝おうか迷うこともあるが、なるべく気にしないようにしている。

『次は　　。　駅で　す』

かすかに耳に入った、アナウンスで僕は行動に移る。

さて、かばんの中からノートを取り出す。目を開けないで。

表紙には、『DATA NOTE』と書かれている。

決して『DEATH NOTE』ではない。

そこは強調しときたい。

まあ黒いけど…。

さて、最後の方からページをめくる。

もうそろそろ、ノートも終わりそうだ。

結構書いた方だ。なかなか僕もやったものだ。楽しいものではないのに。

そして、電車が減速し、停まった。

ドアが開く音がしたので、目を開ける。

「……？」

前を向いたら、そこはまるで別の世界だった。

…なんてことはない。

前を向いたら、そこにいたのは女だった。

別に女が前にいてもおかしくはない。

女の行動を見て僕は、口を開けざる負えなかった。

「…ふっ…ふっ…ふっ…」

なぜなら、女は……

僕の前で筋トレをしていたから。

さて、どうしようか？



## プロローグ（後書き）

暇があれば、続きを書いていきます。

初めて書いたので、出来はわかりません。  
見た方はなるべく感想よろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8824z/>

---

電車内は人の心の中

2011年12月27日20時55分発行